

## 太陽電池の展開と応用電子物性分科会

Involvement of Division of Solid State Physics and Applications in Development of Solar Cells

東工大<sup>1</sup> ○山田 明<sup>1</sup>

Tokyo Institute of Technology<sup>1</sup>, ○Akira Yamada<sup>1</sup>

E-mail: yamada.a.ac@m.titech.ac.jp

昨年 (2012 年) 4 月より応用電子物性分科会の幹事長を努めさせて頂いております。ちょうど小職が幹事長時代に応用電子物性分科会 70 周年の節目を迎えることになり、記念事業の一環として今回のシンポジウムを企画させて頂きました。

応用電子物性分科会 (応電) ですが、基礎となる物性物理があり、かつ出口イメージがあるテーマを中心に年5回の「研究例会」を中心として活動を行ってきております。具体的には、ワイドギャップ材料、窒化物半導体、太陽電池などの次世代の産業のベースになるような材料系を中心に、最近ではテラヘルツ、カーボン系材料、エネルギー・ハーベスティングなど境界領域、新分野の材料系などを積極的に研究例会テーマとして取り上げてきております。このように応電では、光電子材料を扱っておりますが特定の材料系には固定しておりません。また、応用に対しても光、電子、バイオ等と特に限定しておりません。応用物理学会で議論される最先端の話題を始めとして、まだ大きなボリュームには至らないが一つのまとまった話題として議論したいテーマなどを研究例会で積極的に取り上げ、電子物性の応用に関する議論を活性化する場を提供する取り組みを行っております。

今回のシンポジウムでは、60周年から70周年の10年間に幹事長を努められました、井須先生、徳光先生、荻野先生、佐野先生にご講演をお願いし、当時の応電のトピックスとご自身の研究を踏まえた将来に向けたメッセージをお話頂くことにしております。話題も「超高速光学デバイス」「酸化物機能デバイス」「バイオエレクトロニクス」「ワイドギャップ材料」と多岐に亘るのでは無いかと楽しみです。また、東大の荒川先生には特別講演をお願いして、量子ドットデバイスのお話を頂くことになっております。

なおこの講演では、応用電子物性分科会と太陽電池との関わりなどを振り返りつつ、小職の研究を含めながら太陽電池の話題を提供させて頂きたいと思っております。

このシンポジウムを機会に、応用電子物性分科会にご興味を持ち頂き、できれば会員としての参加をご検討頂けましたら幸いです。最後になりますが、応用電子物性分科会会員の皆様、幹事の皆様におかれましては70周年以降、引き続きご協力とご支援をお願い申し上げます。